

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

社会福祉法人 **小羊学園**

〒431-1304

静岡県浜松市細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P <http://www.imix.or.jp/kohituji/>

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2006年 10 月 20 日

第 287 号

つばさ静岡・一周年に寄せて

所長 山 倉 慎 二

「重症心身障害児者施設 つばさ静岡」が開設して一年が経ちました。多くの方々のご好意に支えられ、なんとかここまでたどり着くことができた。まだまだ乗り越えなくてはならない課題も多く、軌道に乗ったとはとてもいえない状況ですが、利用者の方々にはさらなる信頼をもっていただけるよう、また地域の皆様にはもっともって認めていただけるよう努力を重ねて行きますので、今後ともよろしくお願いたします。

先日、「つばさ静岡」設立一周年記念祭を行いました。前日までの大雨がうそのように晴れ渡り、まさに秋晴れという語がふさわしい青空がひろがって、天気までもが一周年を祝ってくれているかのようでした。地区の有志の方によって結成された「座・鼓竜」というグループの太鼓の演奏に始まり、地域の高校生の吹奏楽やギター、また職員や利用者家族による楽器演奏が披露されました。午後のメインコンサートには、昨年の竣工式に「透明の翼」という歌を「つばさ静岡」のためにプレゼントして下さった相曽晴日さんがおいでになり、美しい歌声で参加者を魅了して下さいました。またフリーマー

ケットには多くの障害者支援団体の出店があり、日頃出かけることの少ない利用者にとっても、普段体験できないような賑わいを感じることができたと思います。ご協力くださった多くの方々のおかげで内容盛りだくさんの充実した一日を過ごすことができました。「つばさ静岡」としては初めてこちらから地域の方をお招きした形のイベントではありましたが、初めてにしてはまずまずの出来ではなかったかと思えます。

社会には、機会があれば障害者のために力になるう、あるいはボランティアでも、と思って下さる心優しい多くの人がいます。しかし重症心身障害者は障害者の中でも人数が少ないこと、また一般の方と出会う機会がほとんどないこともあり、なかなか世間では認知されていません。また出会ったとしても、何をしたらいいのかわからない、何ができるのかわからない、という場合が多いようです。何事もまず知ってもらうことがスタートです。そのためにも「つばさ静岡」の知名度を高め、地域の人が出入りしやすい環境を整え、ここに重い障害を持ちながらも懸命に生きている人たちがいるこ

とを見てもらい、そして社会にはもっと大勢の障害者がいることを知ってもらう糸口となるような働きをしていかなければならないと考えています。そしていつかは、彼らと接することが当たり前の世の中になって行ってほしいものです。



つばさ静岡の一年

羽山 純

✂ 開所（最初の入所者を迎える）

つばさ静岡のスタートは準備万端整えて、というわけにはいきませんでした。むしろ何とか開所に間に合わせた。あるいは、準備が整わないうちにその日を迎えてしまった、というつもりもありませんでした。

ただ、それは私たちが準備不足であったということではなく、”あとは利用者の人たちと一緒に考えながら進めていけばいい”という思いもありました。

けれど、それは同じように不安を抱えながら新しい生活をスタートした利用者（一人一人、そしてその家族の方たちにとっては、その不安を募らせるものだったのかもしれない）。

✂ リース作り・クリスマス

そんな風に不安を抱えてスタートした時期に、親御さんたちによってひとつのイベントが行われました。クリスマスを間近にしてクリスマスリースを作る会を開催してくださいました。

親御さんたちの手で玄関ホールに用意されたリース作りの材料を使ってみんなでクリスマスリースを作りました。つばさ静岡が始まって初めての利用者

家族、職員の合作による作品が生まれました。

思うように気持ちが伝えられずに戸惑う利用者、食事、入浴、排泄と思うにまかせないコミュニケーションの難しさに戸惑いながら仕事に追われる職員たち、その双方を気遣ってくださいているご父兄の方たちが一緒に笑顔ですぐす時間が生まれたと思います。

✂ 墨で遊ぼう

クリスマスリース作りは、一月の墨で遊ぼう、という会に引き継がれ、一年たった今もさまざまなお楽しみ会として続いています。そして一〇月には結成されたばかりの家族の会に引き継がれました。

墨で遊ぼうでは、利用者の個性と、ご家族の思いが、墨の濃淡として、筆の勢いとして、時には、半紙に開いた穴として見事に表現されたと思います。

✂ ランチショー

三月には「ランチショー」を行いました。半年間のさまざまな思いを込めて、職員が自分たちの日ごろとは違う面を出して、入所通所の利用者のご父兄をもてなす会にしようとかんばりました。

うまくいったところとそうでないところがあったのは、そのままこの半年間の縮図だったかもしれません。そしてそれを楽しんでくださった利用者として



ご父兄の皆さんの優しいまなざしもこの半年を象徴していたと思います。

✂ 全面開所

年度が代わって四月、全面開所に向けて再スタートしました。より重症な方たちを迎えるために緊張したスタートでした。そして九月、開所以来ちょうど一年たって、入所ベッド六〇床すべてが埋まりました。

ここからがつばさ静岡の本当のスタートだと思えます。

✂ 「わたしの季節」上映会

深沢さんご夫妻を中心にした上映実行委員会との共催した「私の季節」上映会には、四〇〇人近い方がつばさにおいでくださいました。わたしたちの

先輩施設である第二びわこ学園の日常を追った映画は、見に来てくださった方たちのところに静かに染み渡っていったように感じました。

✂ 夏祭り

八月にはつばさ静岡の初めての夏祭りを行いました。祭りの雰囲気になれないちやうちゃんや法被は、地元の町内会や近隣の施設が協力してくださいました。当日は、天候にも恵まれ、あさば太鼓の勇壮なびびきや花火、それに利用者の方たちの和やかな雰囲気、近くを通りかかったご近所さんも立ち寄ってくださいました。

二つのイベントを通して、つばさ静岡が少しずつですが、確実に地域の方たちにその存在を受け入れていただいていることを感じることができました。

✂ 短期入所の一時停止

この一年、多くの課題があり、解決できたものもできなかったものもあります。なかでも、今年の六月から八月の間、スタッフ不足のため、一部の方に短期入所の利用をお断りせざるを得ないことがありました。最もつばさ静岡の開所を期待しておられた医療的ケアの必要な人たちにたいして短期入所利用をお断りせざるを得なかったことは、安全に対して責任をもつためにぎりぎりの判断ではありましたが、大変心苦しいことでした。

✂ 福祉・医療改革の波

一〇月から自立支援法が本格実施され、児童施設も契約制に移行しました。その先には療養介護施設への移行という課題も控えています。さらに、この四月には診療報酬の大改定が実施され、施設経営を直撃しました。

多くの人たちが、ゆとりを失いつつある時代に、そのしわ寄せがもっとも弱いところに来ることのないよう強く望む毎日です。

✂ 一周年

一〇月のはじめに、一周年の記念式を行いました。国会議員、県会議員の皆さんにも多くご来場いただき、改めて、この施設があらわれている特別の意味を考えることになりました。

食事、入浴、排泄など日々の介助に精一杯だった生活も少しずつ落ち着きを見せ、最近では、それぞれのゾーンで作品作りや外出など、工夫が始まっています。
(事務長)

うれしい発見

のどか 望月 沙織

つばさのスタートと同時に私も社会人としての第一歩がスタートしました。はじめは利用者どう接していいのかわからないし、覚えることもいっぱいでおろおろしっぱなしでした。利用者



もつばさでの新しい生活がはじまり落ち着かなかったと思います。バタバタした生活も一年経ってやっと落ち着いてきたところです。

私がイベントの中で一番印象に残っているのは夏祭りです。普段の生活の中で見ている利用者とはまた違った利用者の笑顔を見ることができました。

家族と一緒に過ごしている姿は少し照れているようだったり、すごくご機嫌だったたり、とても楽しそうでした。利用者の男性は甚平でかっこよく、女性

は浴衣を着てまわり綺麗でした。ゲームやラーメン、たこ焼きなどの出店もでてとてもにぎやかで、周りからはたくさん笑いの声が聞こえてきました。

夏祭りでは、火舞いという出し物もあり、それをみた利用者が目を光らせ

握手をしようと手を伸ばしてきました。それがとてもうれしく、練習が大変だったことなど忘れ、やってよかったと感じさせてくれました。最後の花火で、私が一緒にまわっていた利用者は打ち上げ花火を下から上へ目で追い夢中になっていました。花火の明かりでみんながキラキラひかりとてもきれいでした。

最近では利用者が生活の中で日々変化していると実感させられることが多くなりました。Tさんは散歩で他のゾーンに遊びに行くと何か落ち着かず、少し移動しはじめると早く帰りたいと言っているようなサインを送ってきます。

私は、もう帰りたいの？と話しかけつつ、内心では今のゾーンを帰る場所とわかっていのだと思ううれしくなります。Hさんは入所した当初は、口を

つばませでなかなか話をしてくれず、よく泣くこともありました。今ではゾーンに笑い声が響くくらい大きな声で笑い、少しずつ自分からも話をするようになってきました。うまく言えなくても、私の名前を呼んでくれたときはとてもうれしくて、ありがとうと何度も言っていました。

はじめは利用者が好きなこと、きらいなことを必死になって探していました。気が付くと向こうから教えてくれていることが多かったと感じます。毎日の新しい発見を大切にこれからの支援に活かしていきたいです。

握手をしようと手を伸ばしてきました。それがとてもうれしく、練習が大変だったことなど忘れ、やってよかったと感じさせてくれました。最後の花火で、私が一緒にまわっていた利用者は打ち上げ花火を下から上へ目で追い夢中になっていました。花火の明かりでみんながキラキラひかりとてもきれいでした。

『つばさ静岡』と私の一年

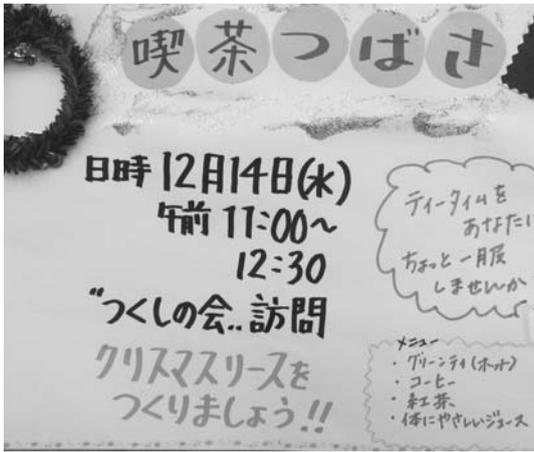
つくし 和田津裕子

『つばさ静岡』開所から一年、二回目の秋がやって来ました。一年を思い返してみると、多くのことが思い出される中まずは、最初の夜勤のことです。

開所直後の深夜勤務、どれだけドキドキしながら勤務したのか、今でもよく思い出されます。重症心身障害児施設に就職する前は総合病院に勤務していました。三交代制で、準夜、深夜勤務も行っていました。患者数も多いため多数の職員で勤務していました。ところが、今回ばかりは新施設開所初日の夜のことです。

事前に初日の深夜勤務になることは把握していました。初日の午後六名





の入所がありました。そのため、入所者にお会いし生活の様子を伺いました。そして、一度帰宅し仮眠をとり、緊張のためほとんど眠れないまま、一時間前には、暗く静かな施設に一人出勤しました。準夜勤務の看護師から申し送りを受け、真新しい広すぎる建物で使い勝手もまだ手探りの状況の中：入所者六人と私の深夜が始まりました。あの時ほど夜が長いと思ったことはない位、時計とにらめっこして、無事に早く朝になって欲しいと願っていました。私も緊張していましたし、入所者の方々の環境が変わり、浅い眠りの方や、ベッドの中で持参のお気に入りで遊んでいる入所者もいました。緊張が入ってしまふ心配のあった入所者もいましたが、入眠することは無かったです。私を初めて見る顔だなあという表情で落ち

着いたまま朝まで過ごしてくれました。次第に明るくなり、早番勤務の出勤がはじまるとホッとしたのを覚えています。開所から徐々に入所者、利用者も増え、今年六月には全てのゾーンが起動しはじめました。今『つばさ静岡』は、笑顔がいっぱいです。四季折々のイベントも開催され、私自身も楽しませてもらっています。その中で私が企画した初めての外出が思い出深いです。入所者三名と日本平にドライブに行ったことです。計画のために私自身も日本平に下見に行ってみました。時間と駐車場、バリアフリーの確認など、綿密にチェックしました。当日は、一月とは思えないほど日差しがとも温かい晴天に恵まれ、正面玄関からも富士山がくっきり見えていました。期待と不安の中、いざ出発、Yさんは車中笑顔です。Iさんはよく周りを見ていました。Nさんもとても穏やかに過ごすことができました。日本平では車から降りて、富士山バックに記念撮影しました。帰りの車内は心地よいゆれの中、皆お昼寝タイムになっていました。計画は大変でしたが、入所者のいろんな表情を見ることができて、とても楽しくドライブを終了することができました。

これからの時季、楽しいイベントもありますし、富士山もよく見える季節です。『つばさ静岡』で利用者と共に楽しく過ごしていきたいです。



わかぎ秋祭りのお礼

つ のぶえ前号でご案内いたしました「わかぎ秋祭り」は二月二日(日)天候にも恵まれ、大勢のお客様がご来場くださり、大変楽しい一日を過ごすことができました。当日はボランティアの皆様にご協力いただき、また、多くの皆様より物品寄贈のご協力をいただき、模擬店、フリーマーケット等の売上額は、二〇二、九八一円となりました。これは今年度開所しました通所事業「オリーブの樹」の備品購入費用の一部に充てさせていただけます。感謝をもってご報告させていただきます。ありがとうございました。

支援センターわかぎ

施設長 松原康好

支える会だより

2006年度小羊学園を支える会寄付金報告

9月 29件 667,857円
(累計 291件 5,889,828円)

皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

小羊学園改築計画にご協力ください

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
静岡銀行細江支店 (普通) 043483

問い合わせ先

〒431-1304 浜松市細江町中川 7440-1 小羊学園

電話 053-437-0826

編集後記

今回は、静岡市に昨年開設した重症心身障害児施設「つばさ静岡」の報告を中心に編集いたしました。静岡市で大道芸のワールドカップが開催されるようになって一〇年位経つでしょうか。今や市民にも定着し全国、全世界から大勢のお客さんを集める定例のイベントになっていきます。市民参加型のビッグイベントを定着させた静岡市で、私たちの福祉の仕事も、市民参加型で市民の皆さんと距離の近いところで、分かち合える事業を展開できれば嬉しいと思っています。つばさ静岡の働きをお覚えいただければ幸いです。皆様のご健康をお祈りいたします。(I)